香川大学教育学部附属坂出小学校

令和４年３月１５日

研究だより

第４５号

自ら伸び続ける子供の育成

～個に応じて，「さ・ぬ・き力」を育てる環境づくり～

ごあいさつ

校　長　坂井（さかい）　聡（さとし）
副校長　藪内（やぶうち）　雅昭（まさあき）

陽春の候，皆様におかれましては，ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

本校の教育研究発表会は２年に１度であり，今年度は新たな研究主題を設定し，実践を積み重ねる年でした。そして，子供が自律的，継続的に学習に取り組み，対人関係など生き方を含めて自ら伸び続けるために必要な力として，「非認知能力」に視点を当て，研究を進めてきました。各教科の実践など研究内容の一端をご覧いただければ幸いです。

また，コロナ禍で教員研修が思うようにできない中，本校では地域貢献の一環として行ってきた研修会を，昨年度からオンライン形式として回を重ねて参りました。本校の研究を広く周知するだけでなく，子供たちと同様に，本校教員も他の教育関係者の皆様と資質を高め合える場と考えています。本小誌にその成果や概要についても掲載しています。

附属学校は，大学等の知見や先進的研究に学びながら，公立校に生かせる研究開発をすることが求められています。どうぞご覧いただき，忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

研究の概要

自ら伸び続ける子供の育成
～個に応じて，「さ・ぬ・き力」を育てる環境づくり～

１．子供を取り巻く状況，これまでの研究から

ユニセフHPより

日本の分野別順位　　子どもの幸福度の結果：３８カ国中 ＜総合順位：20位＞

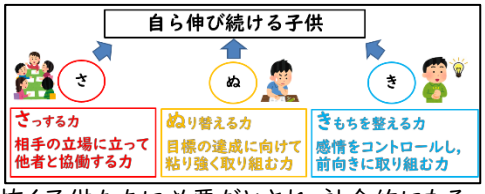
分野	指標
精神的幸福度（37位）	生活満足度が高い15歳の割合
	15～19歳の死亡率
身体的健康（1位）	5～14歳の死亡率
	5～19歳の過体重/肥満の割合
スキル（27位）	数学・読解力で基礎的習熟度に達している15歳の割合
	社会的スキルを身に付けている15歳の割合

ユニセフによる子供の幸福度調査（2018 年）によれば，日本の子供たちは，過体重や死亡率に関わる身体的健康度は 38 カ国中 1 位ですが，日常生活への満足度に関わる精神的幸福度は 37 位と大変低い結果となっています。これは，日常生活への満足度が低いことが関係しています。また，全国学力・学習状況調査では，「課題の解決に自分から取り組む」「失敗を恐れないで挑戦する」といった項目において香川県及び本校の子供たちは肯定的回答率が低いという結果になっています。本校では，これらの子供の状況を踏まえるとともに，これまでの学習意欲に関わる研究成果を基にして，より一層，主体的に学び，他者と協働しながら，意欲的に自己を高め続ける子供を育成していきたいと考えました。

２．自ら伸び続ける子供の姿

これからの時代は正解のない問題にどう立ち向かっていくかということが求められる時代です。そのような時代を生き抜いていく子供たちにとって，どのような力が必要になるのかを私たちは考えました。そして，「自ら問題を見いだし，他者と適切に関わり，困難だと思うことにも挑戦し，試行錯誤しながら，学ぶ価値を実感したり，新しい価値を生み出したりし，自分の力を高め続ける子供」を「自ら伸び続ける子供」と定義しました。この姿は，各教科の授業場面だけでなく，委員会活動やクラブ活動など，各教科以外の場面においても見られると考えています。

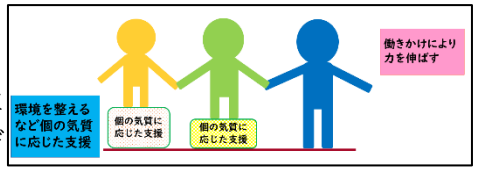
３．「さ・ぬ・き力」とは



上記のような子供を育てるため，私たちは非認知能力に着目しました。非認知能力とは，漢字や計算などと違い，点数にして測定することが難しい力であり，例えば，コミュニケーション力，共感性，粘り強さ，忍耐力，自尊感情，社交性など多種多様です。これらの力がこれからの社会を生き抜く子供たちに必要だとされ，社会的にもその重要性が注目されています。私たちは，目指す子供の姿を実現するために必要な力を選定し，それぞれの力を「さ・ぬ・き力」としました（右図参照）。この三つの力は学校生活の様々な場面で発揮される力であり，子供自身の力で学校生活を豊かにするためにも必要になる力だと考えています。

環境づくりの際には，学習活動を，見通し，行動，振り返りの三つの場面に分けて捉え，場面ごとに働きかけを行います。実際の授業において，例えば，相手の立場に立って他者と協働する力である「さ力」を発揮することで，友達の考えに耳を傾けながらよりよい考えをつくっていこうとします。また，目標の達成に向けて粘り強く取り組む力である「ぬ力」を発揮することで，少し困難な課題に対しても，試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組みます。さらに，感情をコントロールし，自信をもって前向きに取り組む力である「き力」を発揮することで，自分を振り返りながら，自信を高めていくと考えています。

４．個に応じるとは



「さ・ぬ・き力」を発揮する際には，子供それぞれの気質が関わってくることが考えられるため，気質に配慮して指導や支援を行っていくことが大切になります。ここには，これまで本校が研究を進めてきたユニバーサルデザイン（UD）の支援が有効であると考えています。さらに，学級全体への働きかけだけでなく，気質に応じて，個別に支援することが必要な場合もあります。

国語科　第１学年

なりきって読もう　～『くじらぐも』～

学習指導者　西吉（にしよし）　亮二（りょうじ）

本単元では，『くじらぐも』からお気に入りの場面を選び，学級の友達に，その場面を声や動きを工夫して音読をするという言語活動を設定しました。登場人物になりきって，音読したいという思いを基に，登場人物と自分とを重ねて考えることで，楽しみながら登場人物の行動を具体的に想像していきました。

本時では，単元のゴールである音読を意識しながら３・４場面の登場人物の行動について，「声」「顔」「動き」「気持ち」の観点ごとに色分けした付箋を使って想像していきました。この付箋を使って交流することで，様々な観点から想像を広げたり，一つの観点でもより詳しく想像したりするなど，粘り強く考えていきました。豊かに想像を広げると，より，なりきって音読できることを感じながら，自ら進んで学びに向かう姿が見られました。

考　察

〇多様な観点で想像を広げていくことが，単元のゴールである音読をよりよくしていくことにつながると理解しており，意欲的に多様な観点で想像を広げていきました。

●想像したことについて交流する際に，質問する話型等を工夫することで，考えをより深める対話につながったと感じました。

●想像を広げたことが，音読の姿として表出されにくいことがありました。

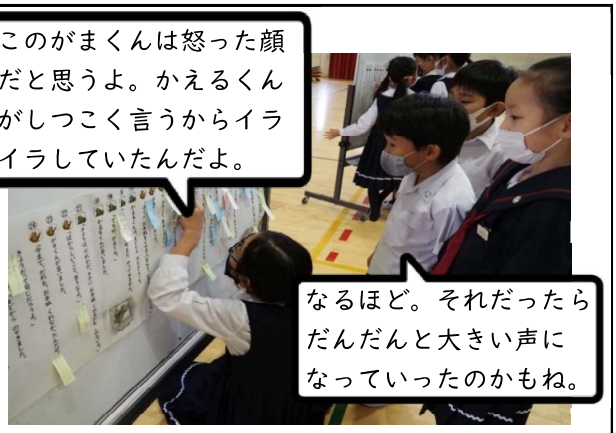
国語科　第２学年

物語の世界を１人音読劇で表現しよう　～『お手紙』～

学習指導者　岡根（おかね）　平（たいら）

本単元では，『ふたりは』シリーズからお気に入りのお話を選び，読み方を工夫するだけでなく，動きや表情もつけた１人音読劇をお家の人に披露するという言語活動を設定しました。１年生の頃よりレベルアップした音読劇にしたいという思いを基に，まずは共通教材『お手紙』の登場人物の行動を具体的に想像していきました。

「表情」「声・言い方」「動き」「気持ち」の観点で具体的に人物の行動を想像し，付箋に書いて班の友達と考えを交流する人物想像タイムでは，気になる想像についてイラストを使って説明したり，実際に動きながら考えを伝え合ったりすることで，複数の観点や，同じ観点でも多様に想像を広げることができました。想像が広がったところを意識しながら音読劇の練習をすることで，音読劇がレベルアップしたことを感じていました。



考　察

〇学習計画を補助黒板に示し，本時の学習課題と単元のゴールとのつながりを確認したことで，音読劇の上達という目的意識を明確にもって学習に取り組むことができました。

●広げた想像を音読劇に生かしていることが見えるような手立てが必要だと感じました。

●グループの交流では，たくさんの付箋が集まりましたが，全ての付箋について話し合えなかった班もあり，時間設定や，話し合いの進め方について手立てが必要だと感じました。

国語科　第２学年

１年生も１人でできるもん，マイおもちゃの説明書作り
～『おもちゃの作り方をせつめいしよう』～

学習指導者　岡根（おかね）　平（たいら）

本単元では，生活科で作ったおもちゃの作り方の説明書を，１年生にプレゼントするという言語活動を設定しました。

文章で作り方を伝えるために，まずは，教材文に使われている書き表し方の工夫を見付け，それを基に自分で説明書を書きました。本時では，１年生にとってより分かりやすい説明書にしたいという思いから，説明書を見直しました。その際には，説明書を基に，実際に友達におもちゃを作ってもらう試してよりよくショータイムを設け，作り方が正しく伝わるか，どんな工夫や言葉を使えばより分かりやすく伝わるかを友達と話し合いながら説明書を粘り強く書き直しました。振り返りでは，自分の頑張りを３段階で評価し，お互いの頑張りを友達と伝え合いました。

考　察

〇説明書を基に，実際におもちゃを作る場を設けることで，自分の説明書の改善点を捉え，どのような工夫や言葉を使えばきちんと伝わるか，多様に考える姿が見られました。

●改善点は見いだせても，それをどう直せばよいか困る子供がいました。ペア学習の後，同じおもちゃを作っている友達同士で，再考する時間をとってもよかったと感じました。

●１年生が説明書を楽しみにしている様子を動画で見せて相手意識を高めましたが，それが本時の課題とどうつながるかを共有すべきでした。

国語科　第５学年

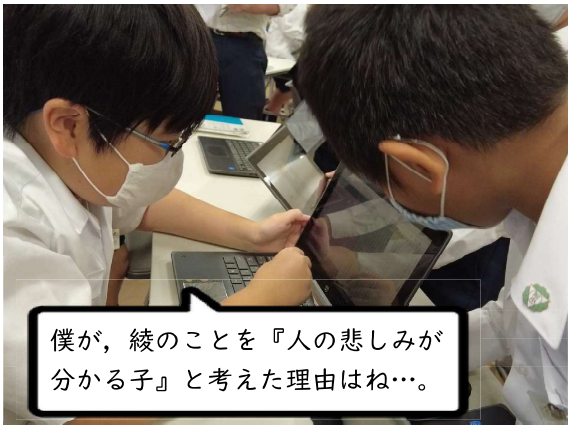
人物像を想像しながら読もう
～『たずねびと』～

学習指導者　東（あずま）　泰右（たいすけ）

本単元では，『たずねびと』を読み，中心人物の人物像を短いキーワードにまとめた「私の考える綾」カードを書いて友達と紹介し合うという言語活動を設定しました。

子供たちは，デジタル教科書を用いながら，綾の戦争に対する思いや考え方が分かる複数の叙述を見付け，それを基に「私の考える綾」をまとめていきました。

想像した人物像について交流するなるほどタイムでは，それぞれの「私の考える綾」を表すキーワードを学習支援アプリを使って集約し，一覧で見られるようにしたことで，気になる考えを見付けて質問しに行ったり，自分の考えを説明したりすることができました。このような交流を何度も繰り返すことによって「私の考える綾」をより具体的なものにしていきました。



考　察

〇全員の考えを手元の端末で見られるようにしたことで，目的をもって進んで友達と関わろうとする姿が見られました。これまでの学習の積み重ねから，交流のよさや必要感を子供たちとしっかりと共有できました。

●人物像を想像する際に，前の場面までに捉えてきたこととつないで考えようとする意識が低かったため，ワークシートの運用面を見直す必要があると感じました。

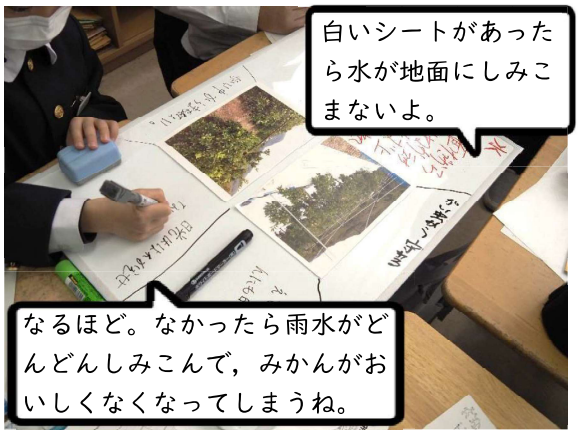
社会科　第３学年

坂出市発，小原紅早生農家の仕事

学習指導者　滝井（たきい）　康隆（やすたか）

本単元では，坂出市の特産品の一つであるみかん（小原紅早生）を生産する農家の仕事の様子を捉え，地域の人々の生活との関連を明らかにしていきました。

本時では，農家がみかん農園に白いシートを敷いている理由を，白いシートの実物から分かったことや既習事項を使って考えました。その際，シートがある時とない時を比較しながらワークシートに記述していくことで，様々な理由を多面的に考えていきました。その後，意見を交流し，白いシートを敷いてみかんの木が吸収する水分を調整し，日光を効率よく当てることで，よりおいしいみかんを生産しようと工夫している農家の仕事の様子を捉えていきました。振り返り場面では，本時の学習活動に対する自己評価を基に，次時の課題を解決するための方法を選択していきました。



考　察

〇考えをつくる際に，ワークシート等で複数の視点を明示することで，農家の工夫の意味を多様に考える姿が多く見られました。

●子供たちが，本時の思考活動に必要な認識をもてるよう，本時までに体験活動等で具体的な理解を深めておく必要がありました。

●班での話合い活動において，意見を一つにまとめていくなど，明確な目標があると，話合いが活発になったと思われます。

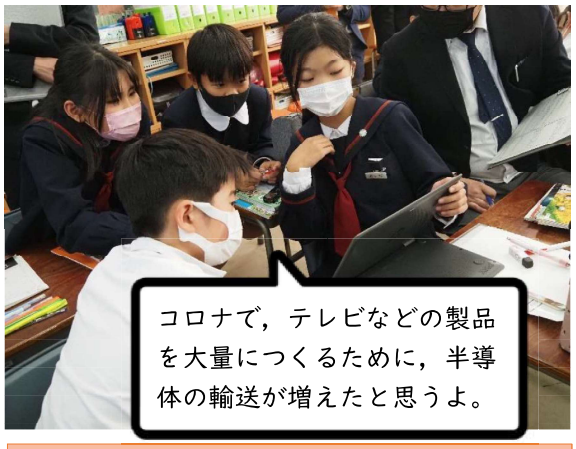
社会科　第５学年

輸出入によって支えられる日本の工業生産

学習指導者　網野（あみの）　未来（みらい）

本単元では，貿易相手国や貿易品，さらには輸送方法について追究していく中で，コロナ禍において，船による輸送が減った一方で，航空機輸送が増えたことに課題意識をもちました。その理由を，既習を基に考え，貿易が工業生産を支えていることを捉えられるようにしました。

本時のいろいろ見方タイムでは，日本や外国の立場（見方）で考えたことを学習支援アプリ上のカードに表現していきました。友達の考えが一覧で見られるので，友達の考えも参考にしながら，多様に考えていきました。話合いを通して，半導体や通信機の貿易が増えたことや，外国の工場が製品を生産するために日本産の半導体を必要としていることに気付きました。さらに，航空機輸送が止まった場合のことも考え，航空機輸送が止まったら様々な所に悪影響が及ぶと理解を深めていく姿が見られました。



考　察

〇アプリ上で全ての友達の考えを見ることができたので，他の友達の考えを参考にしながら，多様に考えていく姿が見られました。

●日本側と外国側から予想するのではなく，日本の輸出と輸入という側面から予想する方が，子供の実態には合っていたと考えます。

●考えをつくる際に，航空機で輸送しているものを全体で確認しなかったので，主に生活経験を基に考える子供が見られました。

算数科　第２学年

身の回りのものの長さを測ろう

学習指導者　好井（よしい）　佑馬（ゆうま）

子供たちは，身の回りのものの長さについて毎時間，考えたいことを見いだしながら学習してきました。本時は，これまで測定してきた，一円玉，マッチ棒，千円札などを使って，10cm ぴったりの長さをつくれるかを考えました。

本時の行動場面では，数値化された長さを計算したり，具体物を操作したりして，10cm をつくる方法を筋道立てて考えました。お試しタイムでは，「２cm の一円玉が５枚で 10cm になるよ」「縦の長さの７cm５mm と横の長さの２cm５mm を合わせると 10cm だね」などと，多様な方法を試しながら，粘り強く考える姿が見られました。10cm をつくる過程で，10cm の量感を養いながら，長さが計算できることを理解した子供たちは，「30cm ものさしをつなげて，もっと長いものの長さを測ってみたい」などと新たに問題を見いだし，次時への学習意欲を高めていきました。

考　察

○具体物を操作して，10cm であることを確かめられるようにすることで，多様な方法を試して，粘り強く問題解決に取り組む姿が見られました。

●ものの組み合わせを考える際に，長さを計算せずに，10cm をつくる様相が見られました。具体物に長さの表記があることで，長さの数値を意識して，ぴったり 10cm の組み合わせを考えられたのではないかと考えました。

算数科　第６学年

縮図と拡大図の考えを生活に生かそう

学習指導者　矢野（やの）　利幸（としゆき）

「縮図と拡大図についてきちんと理解し，日常で使えるようになる」という単元のゴールを目指し，これまでに縮図や拡大図の性質や，それを生かした作図の仕方を学んできた子供たちは，本時，縮図を使って身の回りのものの高さを求めていきました。

まず，校庭のメタセコイアの高さについて，教師の測定結果との誤差１m以内の測定結果を目指し，班で協力して縮図をかき，測定していきました。複数枚のワークシートを活用しながら納得のいく測定結果を目指す納得タイムでは，「より正確に高さを求めたい」という思いをもち，何回も縮図をかいて確かめる姿が見られました。メタセコイアの高さを測定することを通して，縮図のかき方への理解を深めた子供たちは，学んだことを生かし，さらに，自分の測りたいものの高さを測定していきました。

考　察

○複数枚のワークシートを用意することで，測定結果のずれから，より正確な値を求めて忍耐強く何度も測り直そうとする姿を見ることができました。

●１回目の測定の後，グループ内や他のグループと測定結果を見比べる場を設けることで，測定結果のずれを感じて，さらに自分たちの縮図をかき直して測定しようとする意欲を高められたと考えました。

理科　第３学年

音のふしぎ　～音を出して調べよう～

学習指導者　藤井（ふじい）　康裕（やすひろ）

本単元では，音が出ているときと出ていないときの共通点や差異点を基に，音を出したときや音が伝わるときの物の震え方，音の大小による物の震え方の違いを調べていきました。また，授業で学んだことから身の回りの音に関する問いを見いだし，その解決にも取り組みました。

本時は，子供たちが見いだした「エアーポンプの音を小さくしたい」という問いを解決していきました。聴覚だけでなく視覚，触覚も使って何度も音を聞き比べる音鳴りタイムでは，エアーポンプの音を小さくする材質の物を隣の友達と一緒に探っていきました。

振り返り場面では，グループで頑張りを伝え合う場を設定した後に，自分の振り返りを行いました。自分が気付けなかった頑張りにも気付かせることで，本時の課題解決の達成度が上がるように工夫しました。

考　察

○音の伝わり方を視覚（ビーズの動き）や触覚（手で触って）で確認できるようにしたことで，子供たちが粘り強く音を聞き比べようとする姿につながりました。

●考察で他と違う子供の結果を取り上げ，再実験を行うなど，全員が納得してより正確な結果を導き出す方法が必要でした。

●頑張りを十分に自覚できず，課題解決の達成度につながらなかった子供もいました。

理科　第３学年

つく　つかない　どっち
～新発見　回路の真実～

学習指導者　藤井（ふじい）　康裕（やすひろ）

本単元では，既習事項や友達との考えのずれから，子供たちの「なぜ」という思いを高め，回路が一つの輪のようにつながっているときに豆電球の明かりがつくことや，電気を通す物と通さない物があることを理解していきました。

本時の見通し場面では，一つの輪になっているように見えて明かりがつかないという既習事項とのずれから，「どうして明かりがつかないのだろう」という学習課題を自ら設定していきました。子供たちは，回路チェックリストを用いて，豆電球や乾電池，ソケットなどの道具のどこに原因があるか，考えられる原因を一つずつ突き止めながら実験していきました。

写真で見返すことで，実験中の様子を具体的に想起し，取り組み方のよさについて振り返ることができました。

考　察

○明かりがつくはずなのにつかないという既習事項とのずれを生み出すことで，子供たちの学習課題を解決したいという思いを高めることができました。

●考えられる原因を一つずつ突き止める姿は見られましたが，回路チェックリストと実験道具をつなぐ視覚的支援が必要でした。

●写真を自動再生にすることで，教師からのより具体的な言葉かけもできたと思います。

理科　第４学年

MY せん風機を作ろう
～電流のはたらき～

学習指導者　米谷（まいたに）　直樹（なおき）

暑さ対策のための MY 扇風機を作ることを単元のゴールとした子供たちは，設計図作成時に見いだした「乾電池の数を増やすとモーターは速く回るのか」等の問いを解決していきました。

本時はつなぎ方と電流の大きさの関係を捉えるために，カラフル回路を使って回路の様々な場所の電流の大きさを計測しました。加えて，導線と同色のシールに結果を書き込んで貼れるようにし，電流の大きさを何度も忍耐強く計測できるようにしました。「直列は電流が大きくなったけど，並列は電池１個と比べて電流が変わらなかったり，小さくなったりした」という結果から，つなぎ方によって電流の大きさが変化することを捉えました。そして，「並列つなぎはなぜ場所によって電流の大きさが違うのだろう」など，新たな問いを見いだしていきました。

考　察

〇計測結果を導線と同じ色のシールに記録できるようにしたことで，子供たちは忍耐強く実験に取り組み，何度も計測し，より正確な結果を得ることができました。

●忍耐力を発揮したことで課題解決につながったことを教師が価値付けないと，それを自覚したり他の場面で発揮したりはできません。価値付けをより適切な場面で具体的に行う必要があると感じました。

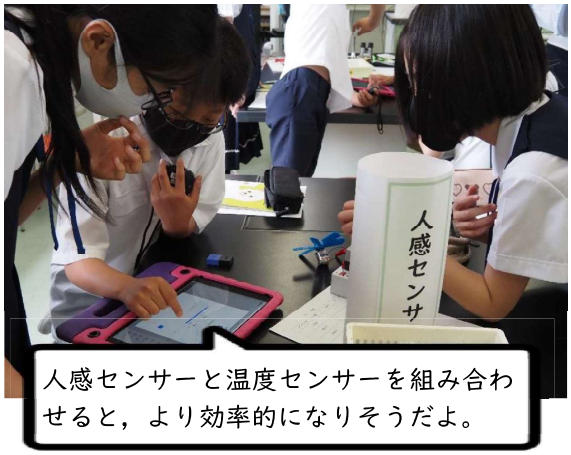
理科　第６学年

電気を大切に使おう
～電気と私たちのくらし～

学習指導者　竹森（たけもり）　大介（だいすけ）

学んだことが生活とつながり，電気を大切にしたいという思いが高まる単元構成にしました。電気を作る大変さや効率的な器具について学んだ子供たちは，さらに節電したいという思いからプログラミングに取り組んできました。

本時は，「どうプログラミングすれば電気を効率的に使えるだろう」という学習課題の解決に向けて，他の班と自由に交流できる色々うろうろタイムを設定しました。子供たちは，その時間を生かし，粘り強くプログラムを作り替えました。また，日常生活を想定して，センサーの組み合わせやセンサーの値を考えることの大切さに気付きました。プログラミングした器具が使える時間を計り，元の時間より長いことから，プログラミングやセンサーを工夫すると，電気を効率的に使えることを捉えていきました。



考　察

〇他のグループを見に行くことで，よい考えを取り入れて，自分の班のプログラミングを修正できていました。何度も試し，時間を計り直す様子も見られました。

●より具体的な場面を想定させておいた方がよかったと思いました。例えば玄関の照明，トイレの照明など，具体的な想定があることで，もっとセンサーの組み合わせや秒数の設定に必要感がもてたのではないかと考えます。

音楽科　第２学年

歌で思いを表そう　～『春がきた』～

学習指導者　高塚（たかつか）　仁志（ひとし）

本題材では，『春がきた』を聴いたり歌ったりする中で抱いた思いを基に，グループで表したい春のイメージを設定し，それに近付けるための歌い方の工夫を考えていきました。

強弱や音色などの歌い方の工夫を書いた春くるカードをグループの友達と見せ合い，実際に歌ったり，その歌を録音して聴いたりすることで，それぞれの工夫がどれだけイメージに近付いているかを吟味しました。その上で，複数の考えのよいところを合わせたり，納得して譲ったりして，合意形成を図っていきました。

授業の終末には一人一台端末を活用し，２択チャートで質問の答えを選択することで本時の学習を振り返りました。子供の選択に応じた教師のコメントが表示されるようにしておき，一人一人の学習の取り組み方に合わせた称賛を全員に対して行えるようにしました。

考　察

○どのグループにおいても，実際に歌いながら工夫を試している姿が見られました。

○２択チャートによる振り返りによって，個に応じた価値付けができました。

●イメージに近付けるという意識が不十分だったグループがありました。低学年なので，イメージを言葉だけでなく絵で表現するなど，グループ内でイメージを十分に共有する手立てが必要だったと思います。

音楽科　第６学年

あなたの　私の　感じた『運命』

学習指導者　高塚（たかつか）　仁志（ひとし）

本題材では，『運命』を鑑賞し，冒頭の「ダダダダーン，ダダダダーン」という動機の部分に「おばけがー，出てきたー」といった歌詞をつけることで，感じ取った曲想を表現しました。

本時は，フェルマータの長さが異なる二つの演奏に歌詞を当てはめながら聴き比べ，「長いと強い恐怖を感じ，短いとあまり恐怖を感じなかったので，深刻さが違う」などと曲想の違いを捉えていきました。鑑賞で感じたことを伝え合うたくさん聞きタイムでは，社交性を発揮してたくさんの友達と交流し，よりよい考えや新しい発見に出合っていきました。授業の終わりにはそれぞれの演奏について，「もともと『運命』は怖い雰囲気の曲だから，フェルマータが長い演奏はその怖さを強調している感じがして好きだな」というように，学んだことを生かして，演奏のよさを味わっている姿が見られました。

考　察

○一人一人の気質に応じて，自分のペースで鑑賞したり，感じたことの記述方法を手書きか入力かで選べたりと，一人一台端末を効果的に活用することができました。

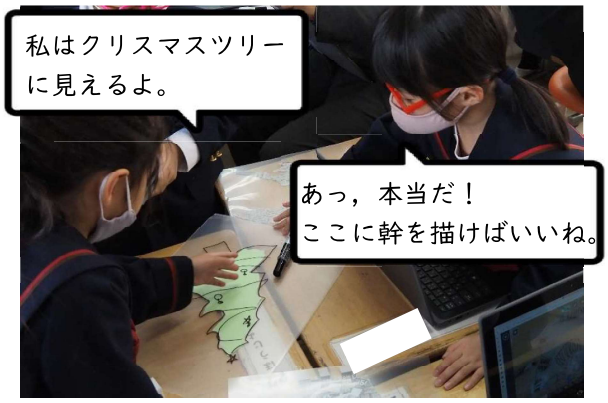
●交流の際に，端末を使って自分の考えを容易に送り合えたのがよかった一方で，対話が少なくなってしまいました。自分の考えの理由について伝え合うなど，内容の深まりのある対話にしていく必要があると感じました。

図画工作科　第１学年

変身ペラさん旅に出る
～やぶいたかたちからうまれたよ～

学習指導者　毛利（もうり）　二実子（ふみこ）

紙を破いて偶然できた形に親しみを込めて「ペラさん」と命名しました。本時では，その面白い形に着目し，クリアホルダーに挟んだ「ペラさん」を，「向きを変える」「描き足す」などの「変身の術」を使っていろいろなものに見立てました。何度も描いたり消したりしてペラさんを変身させるお試しタイムで想像を広げ，変身する度に一人一台端末で写真を記録していきました。そして，グループ内で互いのペラさんを見せ合い，何に変身できるかみんなで考えるもっと変身タイムで，さらにイメージを広げました。粘り強く変身させたり，友達と交流したりすることで，自分のイメージが広がった実感を得た子供たちは，次の時間にはさらに，ペラさんを連れて行きたい世界について想像を膨らませ，絵に表し，作品として旅に出しました。



考　察

○何度も試すことができる教具を用いたり，写真で記録したりしたことで，試行錯誤してイメージを広げることができました。

●形の「全体」を捉えるか，「部分」として捉えるかという視点があれば，もっと多様な見方ができたのではないかと考えます。

●グループ活動をペア活動にすることで発言者に偏りなく対話することができ，自分の作品を再考する時間をとれたのではないかと考えます。

図画工作科　第１学年

進めコロリン　オリジナル大作戦
～かみざらコロコロ～

学習指導者　毛利（もうり）　二実子（ふみこ）

紙皿や筒などを組み合わせて転がるおもちゃ「コロリン」をつくり，転がる動きから自由に想像を広げながら，作品をつくりました。

本時の始めに，見て見てタイムで友達とお互いの作品を見せ合い，「世界に一つだけのオリジナルコロリンにしたい」という思いを膨らませていきました。そして，友達の工夫を見たことで，イメージを更新したり，試してみたい工夫を見付けたりしていきました。

飾りの工夫や材料を選んでつくり，転がしたときの見え方を確かめるお試しタイムでは，粘り強くいろいろな飾りを試したり，友達と交流したりする姿が見られました。その中で，飾りの見え方の面白さや色の美しさに気付き，つくりたいものをつくっていくことの楽しさを味わいました。

考　察

○振り返りでは毎時間，製作した結果をコロリンすごろく上に自分で位置付けることを積み重ねていくことにより，完成に近付いている実感をもつことができていました。

●自分の飾りを製作することに没頭し，試しに転がしてみたり，友達と交流したりする様相があまり見られない子供がいました。題材構成を工夫したり，転がした際の見え方の観点「大きさ」「色」などを整理して，子供と共有したりしておく必要がありました。

家庭科　第6学年

１年生ともっとなかよく
～スマイルプロジェクト～

学習指導者　田中（たなか）　明日香（あすか）

本題材では，１年生との関わりについて問題を見いだし，「１年生ともっとなかよくなるための『スマイルプロジェクト』を成功させよう」と題材のゴールを設定して，学習を進めました。

本時は，「ミシンで何か作ってプレゼントしたい」「整理・整頓を手伝いたい」など，それぞれで考えたスマイルプロジェクトの計画を，より具体的で１年生が喜んでくれるものにするためにプロジェクト再確認タイムを設定しました。子供たちは，１年生のアンケートや１年担任の教師のアドバイス動画などを参考にしたり，友達と交流したりしながら，粘り強く計画を見直して改善していきました。振り返り場面では友達と計画を見せ合ってよさを伝え合うことで，自分の計画がよりよくなったことを実感し，プロジェクト成功への自信を高めました。

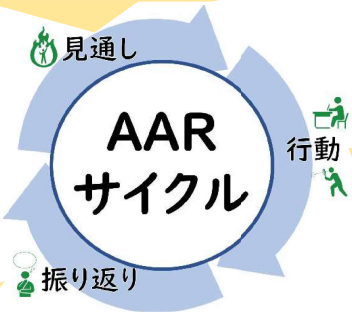
考　察

〇アンケート結果やアドバイス動画を見ることで，相手意識をもって，よりよい計画にしようと再考する姿が見られました。

●１年生と一緒に何をするかという「内容」と１年生への「接し方」の二つの観点で計画を書くワークシートにしておくことで，プロジェクト再確認タイムでの交流が活発になり，より具体的な計画につながったのではないかと考えます。

AARサイクルを意識した取組①
イラストレーター　増田薫さんによるデザイン教室

運動会のオリジナルＴシャツのロゴを考えるために，デザインについて学びたいという思いをもった６年生が増田さんに連絡を取り，指導を依頼しました。



表したいものをキーワードにして整理し，そこからデザインしていく方法などを教わりました。

「今年の運動会のテーマ『感謝』をロゴにしたい」と，意欲を高めていました。

増田さんから教わったことを生かして，Ｔシャツをデザインすることができました。イラストレーターという職業に興味をもつ子供もいました。

体育科　第４学年

歩数を見付けて　もっと遠くへ
～走・跳の運動（幅跳び）～

学習指導者　安岐（あき）　美佐子（みさこ）

本単元では，３～７歩の短い助走で幅跳びの記録会を複数回行う中で，踏切りの強さや角度，助走のリズムなどの遠くに跳ぶための手掛かりを見いだしていきました。

本時では，その手掛かりを基に，自己ベストを目指し，自己の課題に応じた練習の場を選択していきました。トライアンドトライタイムでは，チームの友達と跳躍を見合って考えたことを伝え合う中で，自分に合った歩数で，より遠くに跳べる助走を見付けていきました。そして，自己の記録を更新していきました。活動後のチーム力会議では，自分の頑張りを振り返るとともに，友達の頑張りについて共有しました。そうすることで，記録や勝敗の結果だけでなく，仲間と共に記録の向上に向けて高め合うよさを感じる姿が見られました。

考　察

〇教師が，助走の歩数を選んだ理由を問うことで，子供たちが学習課題の「自分に合った歩数」について理解し，目的意識をもって学習に取り組もうとする姿が見られました。

●試行錯誤しながら課題解決に取り組む姿勢が記録の伸びにつながっていることを具体的な場面を示しながら価値付けることで，粘り強さを発揮したことのよさがより強く感じられるようになったのではないかと考えます。

体育科　第５学年

Time is score
～ボール運動（ベースボール型）～

学習指導者　山本（やまもと）　健太（けんた）

ティーボールを簡易化したゲームにおいて，攻撃側の走者がホームに到達するのと，守備側が捕球して送球するのと，どちらが早いかを競っていきました。２度のリーグ戦に挑戦する中で，攻撃や守備の技能がある程度高まってきた子供たちは，本時の最終戦でさらに得点を増やすために，打順に着目しました。

オーダー会議では，「塁間タイム」「得意技」「調子」などのデータを手がかりに，自分が何番目に打てばチームに貢献することができるかを考えていきました。全員が納得できるように協調性を発揮しながら，自己やチームの特徴に応じた打順を決定していきました。試合後，マイヒーローインタビューで肯定的な相互評価を行う中で，勝敗等の結果だけではなく，取組の姿勢や過程を認め合う姿が見られました。

考　察

〇ミスをしたり，負けたりしたときにも，仲間同士で肯定的な言葉をかけ合うマイヒーローインタビューを行うことで，前向きに次の目標を設定し意欲を高める姿が見られました。

●打順について話し合うために必要なデータをさらに精選して，子供たち全員が必要なデータを用いることができるようにすることで，チームの得点を増やすための対話が，さらに活性化したのではないかと考えます。

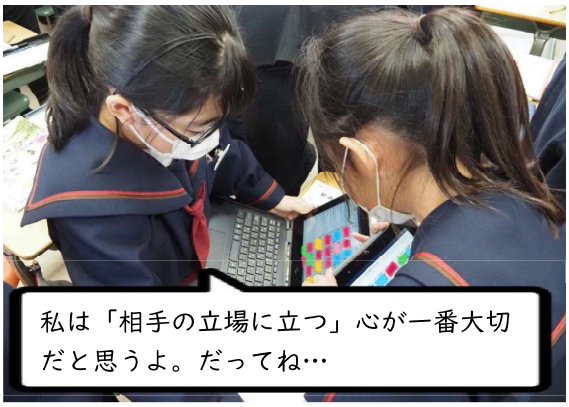
道徳科　第４学年

主題名「どちらが正しいのかな」
教材名『クラスたいこう全員リレー』

学習指導者　安岐（あき）　美佐子（みさこ）

導入では，「主人公が正しいと思ったことを行うことができなかった状況」をロールプレイによって体験的に感じ，自分と教材とをつないで考えていきました。

正しいことをするために大切な心を「相手の立場に立つ」「これからのクラスを考える」「自分を信じる」などのキーワードにまとめ，色分けしました。そして，自分が一番大切にしたい色を選んで，学習支援アプリで共有しました。全員の考えを一覧にし，友達との考えの異同を視覚的に捉えられるようにしたことで，子供たちは選んだ理由を進んで伝え合うことができていました。振り返りでは，事前アンケートを基に生活場面を想起しながら善悪の判断に関わる「これからの自分」を記述し，学んだことを前向きに生かそうとする姿が見られました。



考　察

〇事前アンケートを基に具体的な生活場面とつなぐ支援によって，正しいことを行うときに大切にしたい心について，自分自身と結び付けながら考え続ける姿が見られました。

●ロールプレイの場面では，他者理解や人間理解にも迫るために，途中で役割を交代して主人公の立場に立たせたり，教師が問い返したりすれば，さらに子供の言葉を引き出せたのではないかと考えます。

道徳科　第６学年

主題名「責任と規律ある行動」
教材名『会話のゆくえ』

学習指導者　矢野（やの）　利幸（としゆき）

インターネット上で友達と関わった経験と教材文をつなぎ，正しく関わるためにはどんな心が大切かを考えていきました。

登場人物の行動の問題点から，正しく関わるために大切な心を，「自分の言葉に責任をもつ心」「きちんと伝える心」「相手の気持ちを考える心」「悪いことを止める心」の四つにまとめました。そして，自分が一番大切にしたい心を選び，選んだ心が一目で分かるようにキーワードと色を対応させた色いろ交流カードを用いて，友達と選んだ理由を対話しました。振り返りでは，「友達の考えを聞くことで『相手の気持ちを考える心』も大切だと思った。これからも，相手のことを考えて，責任をもって発言していきたい」などと，自分の課題に気付き，実生活に生かしていこうとする姿が見られました。

考　察

〇色いろ交流カードで，考えの違いを視覚的に示すことが，活発な対話につながりました。

●教材文から責任と規律ある行動についての価値をキーワード化するのに時間がかかってしまい，自分を振り返って考える時間が短くなりました。また，多面的・多角的に考えている子供の姿を価値付けることも大切でした。子供の発言から意図をくみ取り，整理して問い返す教師の価値付けが大切だと考えます。

総合的な学習の時間　第4学年

つながる　ひろがる　人と人
～障害理解への一歩～

学習指導者　米谷（まいたに）　直樹（なおき）

子供たちは，前期に行った特別支援学校の友達との交流を振り返る活動を通して，障害のある人への関心を高め，「障害についてもっと詳しく知って，交流をしたい」という思いから，様々な障害について調べていきました。

本時は，自分が調べた障害のある人の困り感や解決策を同じ障害について調べたグループの友達と紹介し合い，分類していきました。分類する観点ごとに分かれたつながりシートを使って社交性を発揮しながら，調べていなかった困り感についても知り，理解を深めていきました。その後，他の障害について調べた友達とも交流した子供たちは，障害ごとに困り感には特徴があることや，より多様な観点で困り感を見付ける必要があることに気付くなど，障害への理解を深めようとしている姿が見られました。

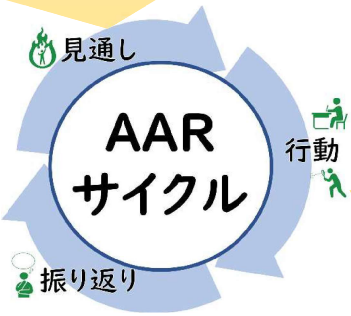
考　察

〇困り感が書かれた付箋を，食事や交通などの観点ごとに分けたシートに貼り付けながら分類したことで，友達の様々な考えに触れ，障害ごとの困り感の特徴などにも気付くことができました。

●分類したシートを見ながら気付いたことを話し合う際に，各教科の見方・考え方を働かせるような視点を提示するなど，思考の手掛かりが必要でした。

AARサイクルを意識した取組②
「走りの学校」校長　和田賢一さんによるスプリント教室

運動会に向けて，速く走れるようになりたいという思いをもった６年生が「走りの学校」校長の和田さんに連絡を取り，指導してもらえるよう依頼しました。



ご自身の体験を踏まえた貴重な講演をお聞きした後で，実際に走り方の指導をしていただきました。

運動が得意な子供も苦手な子供も，生き生きとした表情で楽しんでいました。

速く走るための技術だけでなく，目標に向かって粘り強く挑戦し続けることの大切さを教わり，意識して生活する姿が見られました。

学級活動（1） 第２学年

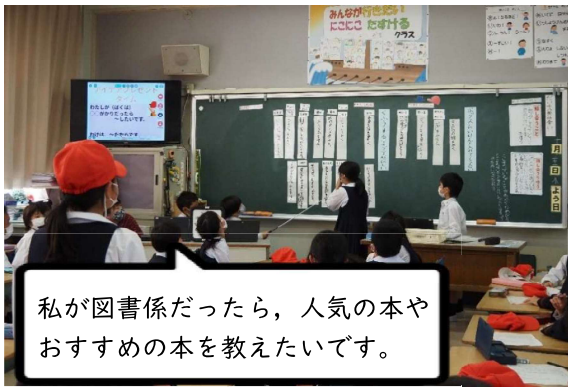
係のお困りすっきり解決
目指せ にこにこ助けるクラス

学習指導者 好井（よしい） 佑馬（ゆうま）

最近の係活動の様子を振り返り，係活動の困っていることをみんなで話し合って解決したいという思いを高めて，学級会を開きました。

本時の行動場面での，アイデアプレゼントタイムでは，アイデアを出す立場を明確にしたり，「自分が〇〇係だったら」という話型を用いたりすることで，他の係活動が困っていることを自分事として捉え，解決方法を出し合いました。その後，出された多くのアイデアを基に，それぞれの係で，今後どのような取組を行っていくかを話し合って決めていきました。

振り返り場面では，話合いの仕方について友達のよさを伝え合い，話し合うことで困っていることを解決できたことを振り返って，話し合うよさを感じ，「決まったことをすぐにやっていきたい」と係活動への意欲を高めていました。



考 察

〇友達からもらったアイデアを基に，自分の係が困っていることの解決方法を進んで話し合って決めていく姿が見られました。

●他の係の困っていることを具体的に共有すると，解決方法を提案しやすいと感じました。

●係で今後の取組を話し合う際に，「すぐにできること」など，条件を示して，順番やよりよい内容を検討できるようにすることで，合意形成に向かえると感じました。

学級活動（1） 第５学年

認め合い，譲り合って心を一つに

学習指導者 東（あずま） 泰右（たいすけ）

友達関係の不安を解決して，全員が安心して屋島集団学習に向かえるように，「友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか」という議題について学級会で話し合いました。

話合いの場面では，出た意見を比べて納得テーブルという表に整理することで，それぞれの取組のメリットやデメリットを視覚的に比較できるようにしました。子供たちは，友達との仲を深めるパーティーでしたい遊びについて，「宝探しなどの『協力系ゲーム』は同じ活動班の友達とチームになるから，仲がもっと深まると思うよ」「先に『自己紹介ゲーム』をすると，お互いのことを詳しく知ることができるから，その後に『協力系ゲーム』をすればもっと協力できるようになるんじゃないかな」などと，それぞれの考えのよさに目を向け，全員が納得できる解決方法を考えていきました。

考 察

〇話合いの前に司会が提案理由を全体で確認したことで，「『クイズ大会』は，チームごとに相談する時間があるから，友達との仲が深まると思うよ」などと，話合いの目的に合った意見を発表する姿が数多く見られました。

●友達の考えを否定せず，メリットをたくさん考えようとしていたのはよい姿勢ですが，デメリットにも目を向け，さらに比較しやすくすることも必要だと感じました。

ライフスキル学習　第４学年

わたしの意志決定
～自分らしさを考えよう～

学習指導者　村上（むらかみ）　絢子（あやこ）

本時は「久しぶりに出張から帰ってくる父親と映画を観る約束」と，「友達と，クラスメイトの入院先へお見舞いに行く約束」とが重なった場面を想定し，どのような意志決定をするか考えました。「映画に行く」「お見舞いに行く」「両方行く」の３点に意見が集中する中，「自分は公平が好きだから，どちらも行かない」など，自分なりの意志決定が行えていた子供もいました。

日常生活で生じうる，人間関係等に関する身近な問題を用い，日頃何気なく行っている意志決定について意識させ，意志決定ステップ（「止まって」「考えて」「決めよう」）を学びました。前思春期にあり，これから様々な意志決定場面を体験するであろう４年生が，適切な意志決定スキルを体験することで，よりよい行動選択を行う基礎づくりを行いました。

自分だったら，午前中お父さんと映画を観て，午後に友達のお見舞いに行くよ。

考　察

○意志決定ステップを用いることで，一つ一つの課題を自分だったらどう意志決定するかを考えることができました。

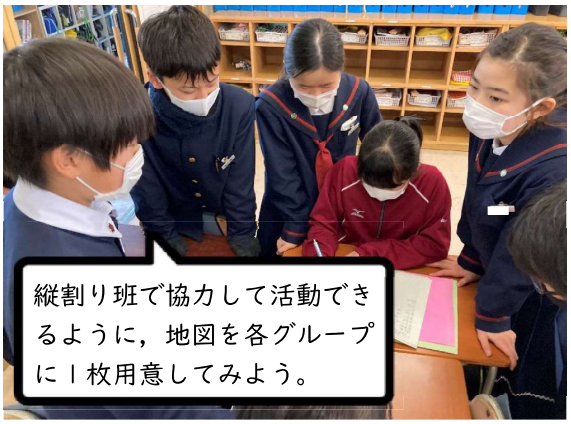
○「ありのままの意見で大丈夫」と何度も伝えることで，子供たちから幅広い意見をたくさん引き出すことができました。

●「なぜ今ライフスキル学習が必要か」を，もう少し詳しく説明すると，子供たちに学ぶ必要感をもたせることができたと感じました。

児童会活動

常時活動に加え，謎解きゲームやうさぎの餌やり体験など，委員会ごとに工夫を凝らした様々なイベントを企画しました。企画の際は，何のためにイベントを行うのか，しっかりと話し合うことで，縦割り班で仲を深めるためのイベントなど，ねらいをもって活動してきました。

また，イベントの後には，参加者の声を基に振り返りを行うことで達成感を感じるとともに，改善点を次に生かすことができました。



縦割り班で協力して活動できるように，地図を各グループに１枚用意してみよう。

クラブ活動

今年度は，クラブを前期と後期に分け，年度途中で再編成しました。前期は，各クラブ担当教員が手本として PR 動画を作成してクラブを紹介し，後期には，異学年で楽しく活動できるようなクラブを６年生が企画して PR するなど，子供主体でクラブを再編成していきました。

また，クラブの活動内容においても，子供たちで話し合って計画を作成したり，役割分担をしたりと，主体的に取り組む姿が見られました。

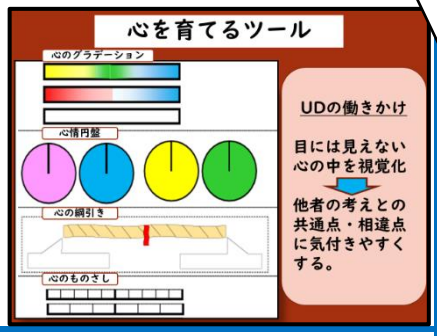
４～６年生みんなが一緒に楽しめるようにルールを調整しよう。

わくわく 授業づくりワークショップ

本年度は，年間7回のワークショップを実施いたしました。オンラインで行ったことにより，北は北海道，南は沖縄県まで全国から計423名の参加申込をいただきました。学校関係者のみならず，民間企業や各種団体，教職を目指す学生の皆さんなど，子供がときめく学びのつくり方について様々な方と一緒に考えることができ，実りある研修会となりました。以下に，各ワークショップの概要と参加者の感想をまとめました。

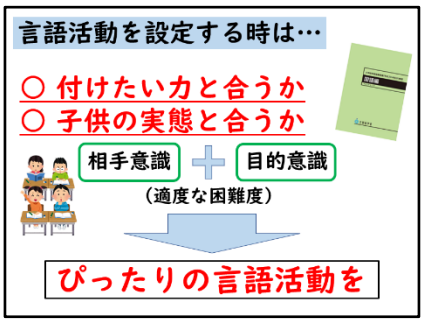
教科等・内容	参加者の声

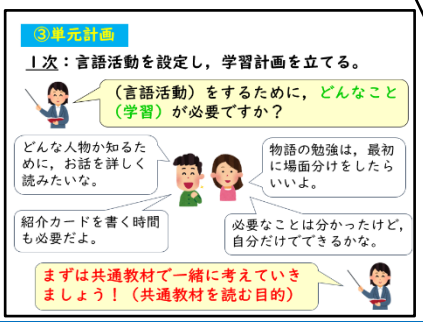
特別支援の視点×道徳科「すべての子供が自己の生き方についての考えを深められる授業づくりのポイント」



道徳の授業が，インクルーシブな学級集団づくりにつながっていることに気付くことができました。「心の綱引き」などのツールを用いることで，心の中を視覚的に示すことができると知りました。繰り返し使うことで実生活の中で無意識に使えるようにすることが大切だと学びました。

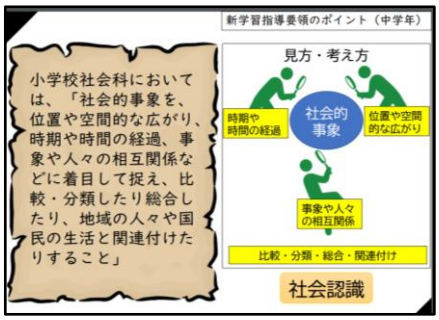
国語科「子供が主体的に学ぶための国語科授業づくりのポイント」

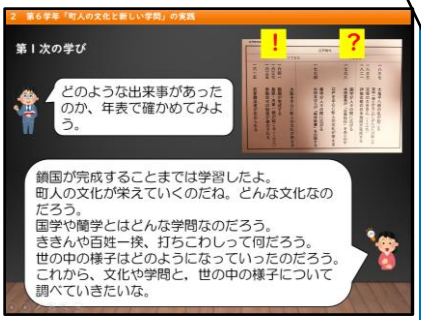




付けたい力を育成するためにぴったりの言語活動を設定する重要性がよく分かりました。また，単元導入時に，子供たちと一緒に学習計画を立てていくための方法など，子供が主体的に国語の授業に向かうための具体的な工夫をたくさん知ることができました。

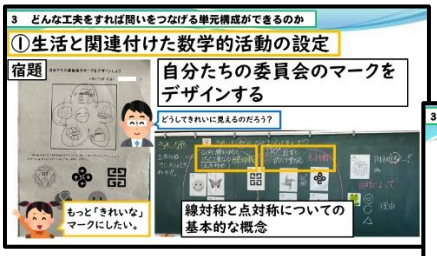
社会科「子供が問いをもって追究し，理解を深める授業づくり」

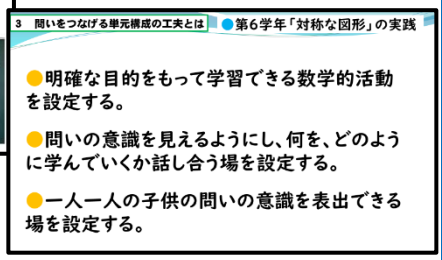




問いとまとめから単元構成をする教材研究が勉強になりました。問いの連続性という視点で自分自身も考えて学習を構成することが大切だと思いました。子供の思考や疑問と，教師が学ばせたいことのバランスを考えて問いを構成したいと思いました。

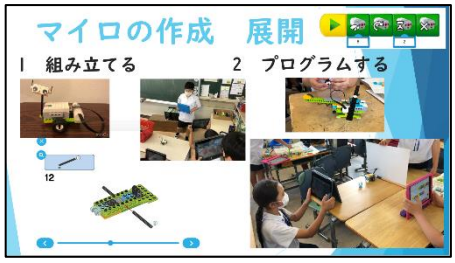
算数科「問いをつなげる単元構成の工夫で，子供と算数を創る」





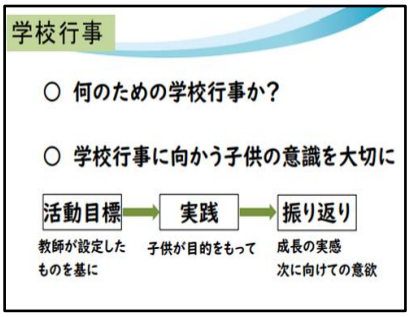
算数科でも魅力的なゴールを設定できれば，他教科と同じように，単元計画を子供とつくることが可能であることが分かり，驚きました。単元のはじめの見通しの時間や，振り返りの記述等を活用しながら，子供の意識を見取り，問いを生かした授業をしたいと思いました。

理科「生活とつなぎ学びを深める～プログラミング学習を通して～」



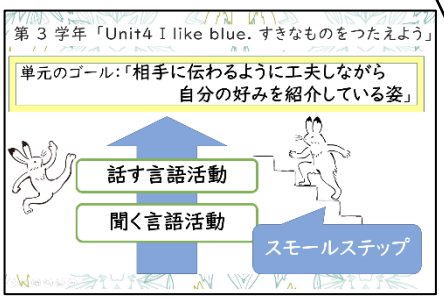
プログラミング学習の一番のよさは，子供が何度でも挑戦・失敗し，やり直しができることにあると感じました。様々な事例，教具を紹介していただいたので，学校で取り組みたいことが見付かりました。技能に走ってしまわないように気を付けて実践したいと思います。

特別活動「子供も教師もわくわくする特別活動をやってみよう！」



子供が主体的に実践・課題解決し，次の課題を見いだしていくサイクルがいいなと思いました。また，子供たちが安心して自分の思いや考えをもち，それを伝えるための様々な支援が参考になりました。このような支援を当たり前に行うために ICT を上手に使えるようにしたいです。

家庭科 「実感を伴って理解できる教材・教具の工夫」
外国語活動・外国語科「相手意識・目的意識のある言語活動」

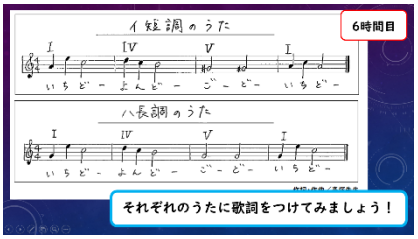


・家庭科の問題解決型学習について，題材の流れが分かり，参考になりました。
・外国語科の言語活動について，具体的な内容を提案してくれて勉強になりました。授業の様子を動画で見ることができ，指導書や本よりイメージしやすかったです。

図画工作科「イメージと色をつなぐ～色の感じ方・表し方～」

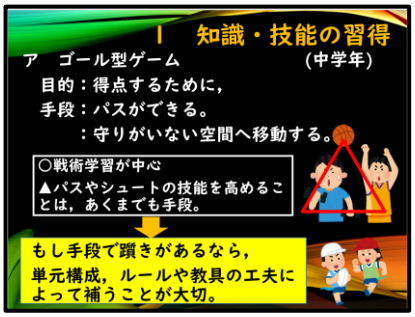
人はそれぞれ色の使い方，色の感じ方が違うことが面白かったです。実践するまでは，大体他の人と同じだろうと思っていましたが，実践してみると自分自身の色の使い方に驚きました。授業でもテーマに合わせて３色選んで作品を作るなど，とても活用できそうだと思いました。

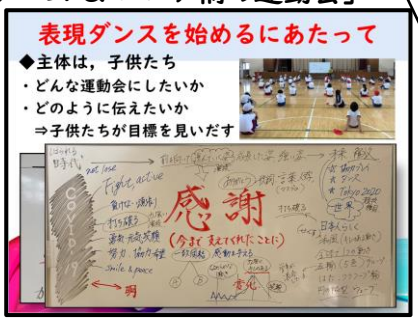
音楽科「一人一台端末を効果的に活用し，『楽しく学びのある』音楽の授業を目指して」



題材で捉えさせたい音楽の要素を焦点化するために，一人一台端末の活用が有効であると感じました。具体的な授業内容と関連した活用法で，実際に操作しながらの音楽づくりや鑑賞の授業の体験ができたので，授業づくりのヒントがたくさん得られました。

体育科「“誰でも明日からできる”ゴール型ゲーム ＆ コロナ禍の運動会」





単元構成におけるスモールステップの考え方が分かりました。また，体育の授業づくりから学級経営や他教科などでも大切な指導・支援を行う指導者の心持ちが再確認できました。UDや合理的な配慮を行うためには，子供たちを適切に理解することが必要だと感じました。

保健室経営「自分らしさ発見☆ライフスキル学習！！」

ライフスキルとは？

「日常生活で生じる様々な問題や要求に対して，建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的な能力」（WHO 定義）

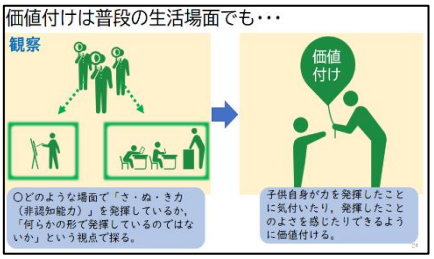
小学校段階で身に付けておくことで，将来よりよく生きるために必要な力を発揮しやすくなります。

ライフスキル学習の工夫点は？

①般化を促す（ライフスキルの定着）
例）ワークシートを持ち帰らせ，学校と家庭が内容共有。
②どんな意見も否定しない
③実施者によるロールプレイ
例）オンラインゲームの誘いの断り方
④学級担任，養護教諭，SC の三者協働

子供たちの気質を理解した上で適切な支援を行っていきたいと思います。意志決定ステップの「止まって，考えて，決めよう」を活用していきたいです。ライフスキル学習は，道徳科と重なる部分が大きいと感じました。教師と子供が一緒に考えていくことが大切だと思います。

座談会「非認知能力って何だろう？」



自分が感じていた疑問について，考えるよい機会になりました。非認知能力を「個人が発揮した」という視点だけでなく，「発揮している集団」として捉える視点が勉強になりました。子供が，「自分っていいな」と感じられるように言語化して伝えることに意味があると思います。

らくらくステップアップセミナー

第3回は 3/28

本年度は，授業づくりワークショップに加え，教師力をアップできるテーマを設定して，全国の先生方と意見を交流するオンライン研修を行いました。こちらも全国からたくさんの先生方に参加申し込みをいただきました。

第１回 学級経営

主に「学級経営」，「学級目標」について実践例を交えながらお話させていただきました。「学級経営」については，互いを尊重し合える支持的な風土づくりの手法や，その効果について考えました。「学級目標」については，一人一人の思いが盛り込まれる学級目標をつくるまでの支援やその過程について，また，学級目標の活用方法として，行事などの振り返りで活用する方法や注意点について，お話しました。

参加者からの声

学級目標を「つくって終わり」という状態でした。しかし，行事など，節目での振り返りに学級目標の効果的な活用法を知ることができ，さっそく運動会後に実践したいと思いました。

第２回 板書・発問

子供にとって分かりやすい板書とはどのようなものなのか，どのような発問が子供の学びを活発にするのか，実践を基にお話しました。構造的な板書の作り方や，目的・活動に応じた発問の仕方，道徳科における発問などについて，ご参加いただいた先生方とチャットやビデオ通話で意見を交わし合いながら学ぶことができました。

参加者からの声

実際の板書画像と共に，様々な教科の視点から提案してくれたことがとても参考になりました。
板書・発問の単なる技術だけではなく，なぜそうした方がよいのか，本質を考えるよい機会となりました。

次年度の研究に向けて

■本年度の研究

本年度は，自ら伸び続ける子供の育成を目指して研究を進めてきました。子供たちの学びを，見通し，行動，振り返りの三つの場面に分け，どのような働きかけが「さ・ぬ・き力」の発揮に有効であるかを探ってきました。

■今後の研究の方向性

次年度は，本年度の研究を継続し，授業を中心とした学校生活において「さ・ぬ・き力」を発揮させるために，より有効な働きかけの在り方を探りつつ，実践を積み重ねていきたいと考えています。

また，公開研究授業や教育研究発表会を通して，たくさんの先生方に子供たちの姿を見て，ご意見をいただきたいと思っております。ご参加，お待ちしています。

あとがき

教　頭　片岡（かたおか）　亜貴子（あきこ）

本年度から研究主題を新たに「自ら伸び続ける子供の育成」とし，特別支援教育の視点も取り入れながら，一人一人を大切にした授業づくりに取り組んで参りました。新型コロナウイルスの感染拡大によって様々な活動が制限される中，いつも希望をくれたのは，歩みを止めずに進み続けようとする子供たちの姿でした。できないことを諦めるのではなく，できることを見付けてチャレンジしていく前向きな姿を見て，改めて人との関わりの大切さ，友達と一緒に学ぶことの素晴らしさを感じることができました。

次年度は，本校の教育研究発表会開催の年となります。これまでの研究の成果を糧として，また新たな学びをご提案できるよう，職員一同心を一つにして取り組んでいく所存です。今後とも，ご指導ご鞭撻の程，よろしくお願いいたします。

編　集　委　員

竹森　大介　　滝井　康隆
米谷　直樹　　好井　佑馬
西吉　亮二　　東　泰右

令和４年３月 15 日

香川大学教育学部附属坂出小学校
TEL　0877-46-2692
FAX　0877-46-5218
E-mail　sakaide@kagawa-u.ac.jp

こちらの QR コードから，指導案をご覧いただけます。